

2020 年度
海洋教育パイオニアスクールプログラム
実践記録集



浜中町立散布小学校

目次

■ 発刊の言葉	1
1 本校の海洋教育に関するグランドデザイン	3
2 今年度の実践	
(1) 1～2年生の取組	8
(2) 3～4年生の取組	9
(3) 5～6年生の取組	11
(4) 教職員研修	13
(5) 避難訓練・津波災害について	14
(6) 地域大感謝祭	15
(7) 公開研究会・授業研究	16
3 次年度以降の取組（単元計画及び授業計画）	
(1) 小学校6年間を通した学び	23
(2) 1～2年生	25
(3) 3～4年生	30
(4) 5～6年生	34
4 今年度の成果と課題	37
◇ 研究者一覧	



発刊の言葉

「散布（浜中町）・道東・北海道が 持続的に発展する手段と人材を」

浜中町立散布小中学校 校長 中 村 研 自

浜中町の人口は現在約 5600 人、これが徐々に減少し、2045 年には半減するとも言われています。人口減少は、地域の産業、就職先、医療、教育、文化など、様々な要因で変化するものです。

採る漁業から育てる漁業にシフトし、安定した収入を得て、教育、文化、スポーツ、医療など「強みと弱み」をしっかりと考えて、住民全員で「住みよいまち」をつくるのがこの地域を持続的に発展させる方向と考え、学校教育としてできることを模索しています。

このような中、本校では、地域の重要な資源である「海洋資源」に焦点をあてて、資源の様子や自然環境・他の漁業との関連までを子供たちの力で探究する「海洋教育」に取り組んでいます。

「あさり島活動」は、平成 22 年度に散布漁業協同組合から「学校専用のあさり島」を提供していただき、中学校で始まった活動です。当初は「あさり島再生活動」として稚貝まき、あさり料理づくり、あさり調査（マーキング、大きさ・重さ計り）を行ってきましたが、平成 27 年度からは、「あさり島活動」とし、あさりの生態・干潟の環境・蝕害生物・散布のあさり漁・昆布漁についての学習を進め、中学生・教職員・保護者が協力して 2 日にわたって「あさり掘り」を行い、採取したあさを漁組に出荷する体験をしています。現在はこの取組を小学校 5・6 年生まで広げて体験しています。漁協の理解とご好意もあり、活動に対して贈与された益金の活用を生徒が考え、被災地への義援金や、老人福祉施設・散布保育所等への玩具寄贈などさまざまな社会貢献活動を経験しています。

「あさり島活動」はふるさと学習です。「あさり島活動」から様々なことを学習し、将来「まちづくり」に貢献するための知識・技術・活用等を身につけており、また多くの保護者が学校の教育活動に協力しているので学校と保護者地域との信頼関係にも多大な良い影響を与えていると思います。将来家業を継ぎたいと考えている生徒も多いのでキャリア教育の面でも有効だと思います。また、教員の側から見ると、都会育ちの教員がへき地の地域を学ぶ機会として資質向上にもなっています。

また、今年度からは藻散布海岸の環境調査や様々な発信活動を広げています。海岸に流れ着く海洋ゴミを調べ、地域の環境と魅力についても考えました。「散布の良いところ探し」というイメージを全児童生徒・教職員が持つことによって、地域をより魅力的にとらえ、広がっていくのではないかと考えています。

「社会に開かれた学校」を目指し、まずは教職員が、この地域を体験し、地域から学んで教育活動を豊かに変えていくことを、この海洋教育パイオニアスクールプログラムの実践を通して進めたいと考えています。現在の小中学生が大人になる「2030 年」、地域の中心として活躍する人材を想定し、学校と地域が本音で話し合い、ともに育てていきたいと考えています。

この実践記録集から、海洋教育パイオニアスクールとして広く地域と結びついた実践と、その成果と課題を感じ取っていただけたら幸いです。

本校の海洋教育に関する
グランドデザイン

1 我が国における海の重要性

(1) 地理的環境

地球上の水の97.5%を湛え、地表の7割を占める海は、生命の源であるとともに、地球全体の気候システムに大きな影響を与え、水の循環の大本として生物の生命維持の上で極めて大きな役割を担っている。

面積約447万k㎡、世界第6位の広さを誇る我が国の管轄水域(内水含む領海+排他的経済水域)には流氷から珊瑚礁までの様々な環境が見られ、沖合に広がる海域には多様な生物・エネルギー・鉱物等の天然資源が豊富に存在している。我々は、この海を資源の確保の場として利用するのはもちろんのこと、世界と交易を行う交通路として、あるいは国民の憩いの場として多面的に利用してきた。現在では総人口の約5割が沿岸部に居住し、動物性タンパクの約4割を水産物から摂取し、輸出入貨物の99%を海上輸送に依存している。

一方、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災によって引き起こされた津波は、尊い生命と地域社会を奪い、海洋環境にも甚大な被害をもたらすなど、海の脅威を見せつける結果となった。四面を海に囲まれた我が国には、津波のみならず海に関する脅威が多数存在することを十分に認識する必要がある、これらを踏まえ海と共存しなければならない。

(出典：海洋教育政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」)



(2) 海を取り巻く国際社会とのつながり

これまで人類は、領海外は誰もが自由に開発・利用できる「海洋の自由」の考え方の下、新たな資源の可能性を求め積極的に海に進出してきた。特に近年、科学技術の進展により行動能力が増すと、沿岸国による海域と資源の囲い込みが進行したが、一方で世界各地に海洋汚染、資源の枯渇、環境破壊を引き起こし、我々自身の生存基盤を脅かす事となった。

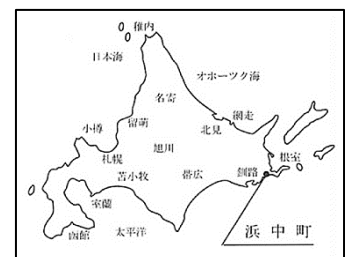
今後更に増加が予想される世界人口の必要とする水・食料・資源・エネルギーの確保や物資の円滑な輸送のためには、今後も我が国一国だけではなく、地球上の全ての国々の協力のもと、海を総合的に管理していかななくてはならない。

(出典：海洋教育政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」)

2 本校を取り巻く環境

(1) 地理・自然

本校の所在する浜中町は、道東釧路地方の東端にあり、太平洋に面した霧多布半島は厚岸道立自然公園の一角をなしている。また、約67kmに及ぶ海岸線は砂浜・奇岩絶壁を有し、嶮暮島をはじめとする大小様々な島が点在し、内陸部の台地状平原や湿原などの美しい景観に包まれている。



南部に位置する霧多布湿原は、火散布沼、藻散布沼とあわせ「ラムサール条約登録湿地」に認定されているほか、北海道遺産に選定され、その中央部は「霧多布泥炭形成植物群落」として国の天然記念物にも指定されている。また、2021年3月には、国定公園(仮称)に指

定される見込みである。気象は、年間平均気温5～6℃、最高気温20℃前後、最低気温-10℃前後と冷涼な地域であり、春から夏にかけては沿岸部を中心に霧が発生しやすく、秋から冬は好天が続き年間雨量は1,000mm程度となっている。

(2) 浜中町の人口及び世帯数の推移

浜中町の人口は、昭和35(1960)年をピークに減少傾向をたどり、令和2年(2020)3月末現在では5,643人となっている。世帯数は、同現在2,441世帯で、人口、世帯数ともに減少傾向にある。1世帯当たり人数は3人を割り込み、核家族化が著しく進んでいる。

【人口等の推移】

(単位:世帯、人)

年度	世帯数	人口			1世帯当たり人数
		男	女	総数	
平成27年	2,460	2,980	3,140	6,120	2.49
平成28年	2,451	2,933	3,063	5,996	2.45
平成29年	2,441	2,902	2,985	5,887	2.41
平成30年	2,439	2,863	2,933	5,796	2.38
令和元年	2,441	2,788	2,855	5,643	2.31

[資料:令和2年3月末現在の住民基本台帳]

(3) 産業別就業構造

浜中町の産業別就業人口は減少傾向にあるが、第1次産業は全体の50%を占め、釧路管内市町村で最も高い構成となっている。漁業就業者は水産資源の減少、魚価の低迷など厳しい経営環境の影響により、減少傾向にあり、後継者不足などが大きな課題となっている。

【産業別就業構造】

(単位:人、%)

区分	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
	総数	構成	総数	構成	総数	総数	総数	構成
総数	4,490	100.0	4,280	100.0	4,018	100.0	3,745	100.0
第1次産業	2,335	52.0	2,233	52.2	2,042	50.8	1,887	50.4
漁業	1,652	36.8	1,536	35.9	1,375	34.2	1,240	33.1
農業	681	15.2	695	16.2	663	16.5	642	17.1
林業	2	0.0	2	0.0	4	0.0	5	0.1
第2次産業	589	13.1	594	13.9	654	16.3	613	16.4
第3次産業	1,566	34.9	1,453	33.9	1,322	32.9	1,245	33.2

[資料:国勢調査]

(出典:浜中町役場水産課「令和元年度版浜中町の水産概況」)

3 学校における海洋教育の必要性

(1) 法的根拠

平成18(2006)年12月改正の教育基本法では、知・徳・体の調和のとれた発達を基本としつつ、個人の自立、他者や社会との関係、自然や環境との関係、国際社会を生きる日本人という観点から具体的な教育の目標が定められた。これに基づき新学習指導要領では、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。

(2) 新学習指導要領のポイント

新学習指導要領の改正のポイントは以下に示されている通りである。

一つ目は、「社会に開かれた教育課程」である。よりよい教育課程を通じてよりよい社会を作るという目標を学校と社会と共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容を明確にしなが、社会との連携・協働によってそのような学校教育の実現を図ることを目指すものである。

二つ目は、「資質・能力（三つの柱）の育成」である。実際の社会や生活で生きて働く（知識・技能）、未知の状況にも対応できる（思考・判断・表現）、学んだことを人生や社会で生かそうとする（学びに向かう力・人間性等）の育成を目指すことである。また、全ての教科等の目標及び内容についても、この三つの柱に基づいて再整理されている。

三つ目は、「カリキュラム・マネジメント」である。子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育課程の質の向上を図っていくことである。

四つ目は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善である。授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、子供たちの「学び」そのものが、「アクティブ」で意味あるものとなっているかという視点から授業をよりよくしていくことである。

（出典：文部科学省「新学習指導要領のポイント」）

(3) 学習指導要領解説編と海洋教育

小学校および中学校の『学習指導要領解説編』では「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容についての参考資料」として「海洋に関する教育」が記載された。そこでは『学習指導要領総則』第2に示されている「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」と、第3に示されている「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を達成するためのものとして海洋教育が記載されている。

第2-2(2) 各学校においては、児童や学校、地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

第3-1(5) 児童が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。

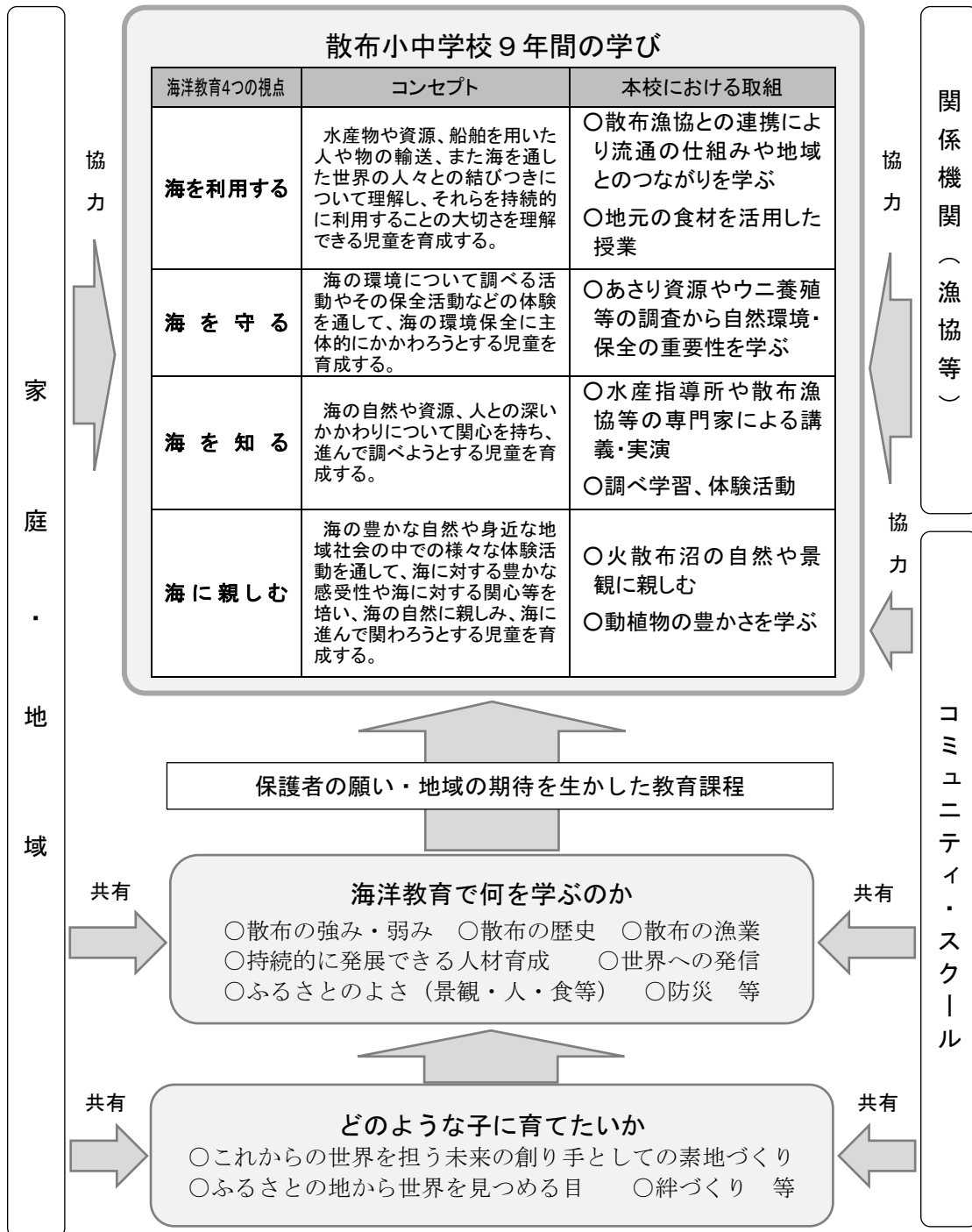
海洋と人類の共生を実現するためには、教科を横断した幅広い視点から考えることが必要である。また、共生のあり方には答えがないため、一人一人が自分ごととし、対話を重ねながら実現に向けて探究していくことが必要である。このように、海洋教育は、新たな時代の教育のあり方としても求められている。

(4) 本校における海洋教育「散布学（海洋編）」のコンセプト～社会に開かれた教育課程～

ア 目指すゴール

地域の海や水産業、地域の環境などについての探究活動を通して、地域の海や水産資源と環境の結び付きについて理解するとともに、地域の発展に貢献することのできる人材を育成する。

イ 具体的活動・協力体制



今年度の実践

1・2年生の取組

1 はじめに

1年生4名、2年生5名のほとんどの家庭が漁業に携わっており、子供たちも、家で昆布干しの仕事などを手伝っている。子供たちにとって、海は、お手伝いの場であり、ときには遊び場ともなる非常に身近なものである。

1・2年生では、例年、生活科での学校周辺の自然探索や、マリンバンク主催の海の子作品展に応募する作品の制作を行っている。今年度も、観察などの体験活動や製作を、海洋教育に関連付けて実施しながら、カリキュラムの見直し・改善も視野に入れつつ、海洋についての学習を進めてきた。

2 今年度の実践

(1) 生活：藻散布海岸散策

6月（4時間扱い）

生活科では、適宜、校庭や校区の自然、生物について、その生活の様子や、それらの関係について興味を高めることを目的に、校庭や校区の自然探索に取り組んだ。その一環で、海の生物を観察し、その生活の様子を知り、海にさらなる親しみをもち、自分と海との関係について考えるために藻散布海岸へ散策に行った。



(2) 図工：「海の子作品展」作品制作

9月（4時間扱い）

マリンバンク主催により毎年実施している海の子作品展に今年度も取り組んだ。この取り組みの目的は、海そのものへの興味を高めることである。なお、これらの作品は、10月に実施された本校文化祭での作品展にも展示された。



3 実践の成果と課題

(1) 成果

藻散布海岸散策においては、数多くの水辺の生きものにふれ合い、本校周辺の自然の豊かさに気づくことができた。また、それらの栄養分が海に流れ込み、魚、昆布、ウニなどの豊かな海産資源の育成に繋がり、自分の生活を支えていることを学ぶことができた。

海の子作品展においては、海の生物、家での仕事の様子、海での遊びなど、様々なテーマの絵を描き、海への興味関心を高めることができた。

(2) 課題

藻散布海岸の散策については今後も継続して取り組み、季節や年月の変化によって、生物や周辺の環境がどのように変わっていくのかを学習させることが必要と考えられる。

4 次年度に向けて

子供たちが海に親しみ、自身と海とのつながりについてより深く考えるために、身近な海での遊び等を通して海に関わる時間をさらに確保し、内容の充実を図っていきたい。

3・4年生の取組

1 はじめに

本学級は、3年生1名、4年生7名の計8名である。今年度は、海辺の環境を調査したり、海と山のつながりを考えたりする「湿原学習」と、海の自然や資源、人との深い関わりについて調べる「散布の海の仕事を紹介しよう！」の学習を行った。それらの活動の成果と課題を踏まえ、次年度以降のカリキュラム作成を行った。

2 今年度の実践

(1) 湿原学習「海辺のゴミについて考えよう！」

期日：令和2年6月22日（金）8:45～11:45 講師：霧多布湿原センター 森田 茉莉子氏 他2名

3～6年生は海岸の奥まで進み、海の生き物を探す活動を行った。「見たことあるけど知らない！」という生き物の正式な名称や生態について、講師の方々に教えていただくことができた。

その後、海辺に打ち上がっているゴミを集め、ゴミのほとんどは「人工物」であることがわかった。そのことから、自分たちの暮らしと海辺の環境のつながりについて考えることができた。

子供たちからは「海の生き物について知ることができた。」「こんなにゴミがあるとは思わなかった。」「ゴミを減らすためにできることをしていきたい。」「他に自分たちに何ができるのかを考えたい。」等の感想が聞かれ、自分たちの地域や海辺の環境について考えることができた有意義な学習となった。



(2) 図工「海の子作品展」作品制作

取組期間：8～9月（4時間扱い）

海の仕事や自然環境への興味を高めることを目的に、海の子作品展（主催：マリンバンク）に今年度も取り組んだ。



(3) 散布学（海洋編）：「散布の海の仕事を紹介しよう！」

取組期間：令和2年9月～10月（19時間扱い）

子供たちは、昆布干し作業の手順などの仕事の内容については理解しているが、これらの仕事が海の恩恵を受け、環境に大きく影響を受けていることや、仕事に携わる人々の努力や苦勞を理解するまでには至っていない。そこで、地域の産業や携わる人々の思いを理解し、海の自然や資源、人との深いかかわりについて進んで調べようとする意識を高めるために、本単元を計画した。

水揚げ作業の見学や、自分たちの地域を見つめ直す学習を通して、子供たちは「散布は何漁が多いのだろう」「散布ではど



んな魚が獲れるのだろうか」「昆布の種類はどのくらいあるのだろうか」「お家の人はどのような思いで仕事をしているのだろうか」など、様々な疑問を抱いていた。その疑問を解決するために、インターネットを活用した調べ学習や、お家の方へのインタビューを行い、自分たちの疑問を解決していくことができた。

また、調査して明らかになったことを、ポスターやリーフレット、新聞、模造紙にまとめ、地域大感謝祭で発表することとした。



(4) 地域大感謝祭での発表

期日：12月5日（土）

「散布の海の仕事を紹介しよう！」の学習の成果を、児童生徒や保護者に発表することができた。

子供たちは、「昆布の種類」「散布で獲れる魚の旬の時期」「散布で獲れる魚とその金額」「散布の漁師の数について」「散布で行われている漁について」などの発表を行った。



(5) 湿原学習「歩くスキーで冬の湿原散策」

期日：令和3年2月12日（木）9:00～11:30 講師：霧多布湿原センター 森田茉莉子氏 他2名

子供たちに「海と山のつながり」や、その中間に河川や湿原があることを明確に意識付けし、自分たちの住む地域だけではなくひとつながりのものとして浜中町の自然を大切にしようとする気持ちを育むことを目的に、冬場にしか入ることのできない霧多布湿原を歩くスキーで散策する活動を行った。また、事前学習で知った「海と山のつながり」のキーワードである「魚付林」などの確認の場となった。



3 実践の成果と課題

(1) 成果

藻散布海岸での学習をきっかけに、「海の資源」や「散布の産業」につなげていくことができた。そして「産業に携わる人々の思い」にも触れることができ、より一層地域に誇りを持つことができた。また、「海と山のつながり」を事前に調べ、その後の「冬の自然散策」の学習につなげることができた。知識と体験が結び付いた活動となった。

(2) 課題

子供たちの課題意識と探究活動につながりが生まれるようなカリキュラムの作成が必要である。また、国語（リーフレット、ポスター）、理科（水のゆくえ）、社会（土地の利用）など、海洋教育と関連を図ることができる教科を整理していく必要がある。

4 次年度に向けて

次年度は、「子供の課題意識と探究活動のつながり」「教科横断的な視点」を意識したカリキュラムを編成・実施する。

5・6年生の取組

1 はじめに

本学級は、5年生1名、6年生6名の計7名である。昨年度は、あさり島活動への参加を通して、自分たちの身近な海に更に関心を持ってもらえるよう活動を位置づけ、また、今までの活動と海洋教育との関連を整理し次年度以降のカリキュラム整備を目指していった。

今年度は昨年度作成したカリキュラムをベースにし、自分たちの住んでいる散布の10年後を見据えた「まちづくり」を考え、それらの「発信」をテーマに活動を進めていった。

2 今年度の実践

(1) あさり島活動への参加

あさり島活動は平成22年度から散布中学校で行われている活動である。小学生の参加は2年目を迎える。あさり島活動への参加を通して、自分たちの身近な部分から課題意識を持つよう取り組んでいった。



あさり島活動事前学習・オリエンテーションでは、あさり島活動に関わる事前学習、水産指導所の方々からあさりの生態に関わる講話、そしてあさり島活動のオリエンテーションを中学生と一緒にいった。

6月8日、9日にあさり島活動を行った。1日目は採取及び外敵駆除を行う。採取量が昨年の半分以下の408kgとなる。児童は中学生の編成した3班に分かれて意欲的に活動を行っていた。2日目は、活動時間ではまだ十分に潮が引いた状態ではなかったが、前回に引き続きあさりの採取と外敵駆除を行う。また、稚貝まきも行い、次年度以降のあさり島の環境保全についても体験することができた。

(2) 藻散布海岸学習

6月22日に全校児童で藻散布海岸に行き海辺の学習を行った。5・6年生は3・4年生と一緒に水辺の生物の観察を行い、海岸付近のゴミ拾いを行った。拾ったゴミを分別し、最後は環境を守るために自分たちができることは何かを考え「散小エコ宣言」にまとめ、日々の暮らしで意識していくことを確認した。



(3) 図工「海の子作品」作品制作

毎年取り組んでいるが、今年も「あさり島活動」を題材にして、作成に取り組んだ。

(4) 宿泊研修・北方領土見学

ア 宿泊研修

9月10日・11日の2日間で隣町の厚岸町へ見学にいった。海洋教育推進校の厚岸翔洋高校と連携し、地引き網体験や活動の交流を行った。厚岸漁協では完成したばかりの漁港や競りの様子、冷凍工場の様子を見学した。また、道の駅コンキリエで商品開発に関わる講話や自分たちが考えた商品等を発表し、まちづくりのアイデアに対するアドバイスをいただいた。



イ 北方領土学習

9月28日に実施した北方領土学習では、根室市の北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）や納沙布岬を訪れ、北方領土についての学習を行った。実際に見学することで更に海に対する興味を持つきっかけとなった。

(5) 防災学習

避難訓練の一環として、今回は北海道教育大学釧路校境教授とそのゼミの学生の指導のもと津波発生のメカニズムと避難について学習した。津波と通常の波の違いを体感し、いろいろな場面での適切な行動について考え学ぶことができた。当日は保護者も多数参観に来ていた。

(6) 海洋教育パイオニアスクール全道成果発表会への参加

11月23日に千歳市において、上記の発表会が行われた。文化祭前の開催のため動画での参加となった。「あさり島活動」を中心に海洋教育で学習したことを中心に発表内容を考え、スライドを作成し、発表の動画を撮影した。

(7) 地域大感謝祭での発表

「散布ちょこっと未来」をテーマに自分たちが考える散布のまちづくりについて今までの学習内容をもとに「散布の自然」を生かしたまちづくりと散布に「道の駅」を作るまちづくりの2班に分かれて、発表資料を作成し、児童生徒、教師、保護者に自分たちの考えたまちづくりを発表した。



(8) 「散布未来予想」～新聞作りの取り組み～

釧路新聞社の企画に参加し、今まで学習した「あさり島活動」、「藻散布海岸での学習」、「まち作り」のことを記事にして取り組んだ。

3 実践の成果と課題

(1) 成果

今年度は「散布ちょこっと未来」のテーマのもと、様々な体験活動を通して魅力ある散布のまちづくりを考える中で、自分たちの身近な環境を再発見し、さらに愛着を持つことができた。様々な場面で発信を意識していく中で、相手意識をより高く持ったり、説得させるための方法を考えたりすることができた。

(2) 課題

今年度の活動をもとに、見直しを図り、2年1巡できるよう学年や発達段階を考慮し、児童の課題意識と探究活動の推進を支えていくカリキュラムの作成が必要である。

4 次年度に向けて

課題にも記述したとおり、2年1巡で行えるカリキュラムの実践と検証・見直しを行う。カリキュラムに関しては、他教科の関連も整理し、教育課程に位置づけていく。

1 はじめに

あさり島活動は、平成22年度に散布漁業協同組合より「学校専用のあさり島」を提供いただき、中学校生徒を対象に、あさりの生態、干潟の環境、蝕害生物、散布のあさり漁・昆布漁に関する学習やあさり掘り体験等を行ってきた。昨年度から、これらの活動に小学5・6年生も加わっている。危険個所の確認、作業の確認、指導者として必要な知識を身に付けるため、次のとおり教職員研修を実施した。

2 今年度の実践

(1) あさり掘り体験

日時：令和2年5月26日（火）10：40～11：30

場所：火散布沼・あさり島

散布小中学校の教職員と保護者とであさり島へ向かい、あさり採取活動の下見を行った。あさりの密集地帯や少ない場所、小学生が活動するための水深等を確認した。あさりの密度、大きさの様子から、採取と同時に土壌を耕して稚貝撒きをすることも同行いただいた保護者から提案された。また、児童生徒のあさり採取の前に、本下見で採取したあさり5kgを貝毒検査のために散布漁業組合へ提出した。



(2) あさりの生態学習会

日時：令和2年6月2日（火）13：05～13：50

場所：散布小中学校 体育館

講師：散布漁業協同組合総務指導課長 西田 善行 氏
釧路地区水産技術普及指導所主査 三好 大介 氏
普及職員 朝倉 健 氏

小学5・6年生、中学生、教職員を対象に3名の講師を招き、「あさりの蝕害生物について」と題し講演をいただいた。



3 実践の成果と課題

(1) 成果

新型コロナウイルスの影響により、例年よりは遅れた開催になったが、あさり掘り体験、生態学習会をすることができた。

(2) 課題

今後も感染症などの不慮の影響を考慮して計画をする。

4 次年度に向けて

来年度も教職員研修を継続すると共に内容の充実を図り、更に安全性に配慮していく。

1 はじめに

平成25年3月に浜中町が策定した「浜中町津波防災マップ」によると、北海道太平洋沖を震源とする地震で津波が発生した場合、火散布地域への第1波到達は23分後、最大水位は27.0mに達する。そのため海拔2mの本校において津波を想定した学習は欠かすことのできないものである。そこで、今年度は、地震・津波の発生メカニズムの講義や実験を通して、日頃からの防災意識を高めるとともに、非常時に冷静な判断や生命最優先の行動ができる児童・生徒の育成を図ることを目的とした避難訓練を行った。また、その日を自由参観とし、保護者の方々にも参加いただいた。

2 今年度の実践

期日：令和2年11月7日（木）9:30～11:30 講師：北海道教育大学釧路校教授 境 智洋 氏 学生5名

(1) 第1部「津波のメカニズム」

津波と波のメカニズムを学習した後、実験装置を使って津波と波の比較を行った。津波は「地震によって起こる」「押し波と引き波がある」「川を上がってくる」「何回もくる」ということを学習した。



(2) 第2部「津波から身を守るために」

2つのグループに分かれ授業が展開された。小1～4年生グループは、境教授と学生による寸劇を織り交ぜた授業、小5～中3は、周辺地図をもとに「どのように避難したらよいか」を話し合う活動を行った。どちらのグループも地震が来る可能性や、津波から身を守るにはどうすべきかについて学びを深めた。



保護者の声

あらためて津波の恐ろしさを知りました。「地震イコール津波」です。大きい地震に限らず、小さくてもすぐに逃げます。家庭でのルールを作って、すぐ判断できるようにしておきたいと思いました。私たち親も、津波に対する行動をとれるよう心掛けたいと感じました。



3 実践の成果と課題

(1) 成果

児童生徒、保護者、教職員が津波のメカニズムを確認し防災意識を高める機会となった。

(2) 課題

事前に講師と打ち合わせが必要であり、この学習をどのくらいの頻度で行うか検討が必要である。

4 次年度に向けて

児童生徒の学びが蓄積され、非常時に冷静な判断や生命最優先の行動ができるよう、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練（DIG）や津波実験等を隔年で行う。

地域大感謝祭

1 はじめに

地域大感謝祭は地域の方々や他学年と交流し感謝の気持ちを表すことを目的とした行事である。今年度は、「地域を学び、地域を愛し、地域をよりよくする方策を考える姿」や「生き生きと学び発表する姿」を見せることが「感謝」になると迫考した。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、保護者のみの公開として実施した。

2 今年度の実践

期日：令和2年12月5日（土）9：20～11：30

(1) 小学校の取組

1・2年生は体育館にて模擬店「さかなゲームランド」を出店した。3・4年生は、「散布の海の仕事調べ」で手書きポスターとICT機器を用いた発表を行った。5・6年生は、「散布ちよこっと未来」と題し、まちづくりの構想をプレゼンテーションした。



(2) 中学校の取組

3班に分かれ、あさり島活動報告、散布で採れた貝殻を使った牡蠣のキャンドル作り、あさりのアクセサリ作りを行った。



保護者の声

5・6年の発表もとても夢がふくらむ構想で、実現出来たら良いなと本気で思いました。子供たちが将来、散布を離れても自分たちの故郷のことを誇りを持って話せるように私たち大人も頑張らなければと改めて感じました。本人もみんなの反響がうれしかったと話していました。



3 実践の成果と課題

(1) 成果

児童生徒が「発信」に慣れ、「海洋教育の学び」と「地域への感謝」の関連性が浸透した。中学生による参加型の催しが好評であった。



(2) 課題

コロナ禍で地元の食材を使った料理の提供を中止したため地域との連携が減った。小中の連携も少なかった。

4 次年度に向けて

発表で出たアイデアの実現を目指すことで、地域連携、小中連携、「発信」の動機付けにもなると考える。今年度の成果をつなげていきたい。

1 はじめに

今年度の研究の成果を広めるとともに、参加者からのフィードバックによって研究の方向性の修正を図ることを目的に、標記公開・授業研究会を開催した。

テーマを「散布の海からの発信～散布を誇れる子供の育成を目指して～」と定め、授業公開のほか本校の研究に関する説明、研究協議を行った。

2 日時 令和2年9月23日（水）13：05～16：00

3 時程

	12:50	13:05	1350	14:05	14:40	15:50	16:00
受付		授業公開 小3・4年生 「散布学(海洋編)」 「散布の海の仕事を調べよう」	休憩	説明 本校の海洋教育の 取組について	研究協議 子供こ深い学びを促す 海洋教育の実践の在り方		閉会



4 参加者 35名

5 参加者の感想～抜粋～

(1) 授業公開〔小3・4年散布学（海洋編）〕について

- 先生の準備、予習が大変だったと思います。素晴らしいファシリテーションでした。子供たちの活発さにも驚きました。この先の環境・産業を担う子供たちが、将来の社会や環境へのビジョンを持ってくれることを祈ります。
- 地域に根差した学習、「分からないこと、深く知らないこと」をスタートとして、学習していくスタイルがとてもよかったです。



(2) 説明（本校のグランドデザイン、あさり島活動）について

- グランドデザイン：わかりやすかったです、資料の文字が多かったです。目標が明確でとても良いと思います。
- あさり島活動：「散布の未来ポジティブシンキング」いいですね。10年後、20年度の海について考えてもらうきっかけはすごく大切だと思います。オリエンテーションを先輩がやるのもフィードバックとしてすごくいいと思いました。



(3) 研究協議（子供に深い学びを促す海洋教育の実践）について

- キーワードを3つ挙げました。“リソース(地域資源、ヒト、モノ、お金、時間)”、“つながり”、“イメージ(楽しかったという記憶、体験)”
- グループトークはよかったです、すべてグループに任せるのではなく、柱2本くらいは共通に示したほうが後の共有で生きるかと思えます。
- 授業の感想も聞くことができてよかったです。



(4) その他、感じたことや気付いたこと

- 散布のことが好き、浜中のことが好きな子が増え、地域のことを誇りに思う子が少しでも多くなるよう、お手伝いさせていただきたいと思います、今後ともどうぞよろしくお願い致します。
- 先生も児童も皆さん活発で、とても楽しく有意義な時間でした。ありがとうございました！ 唯一、教職をとっていない参加者だったのではないかと思います。勉強になりました。



散布学（海洋編） 学習指導案

日時：令和2年9月23日（水）5校時

児童：第3学年 男子1名

第4学年 男子4名 女子3名

場所：第3・4学年教室

授業者：常陸 勇馬

1 単元名 「散布の海の仕事を調べよう」

2 単元の目標

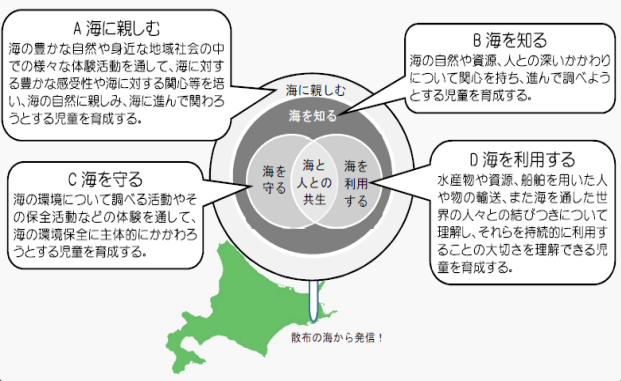
- ・自分たちの住む地域の産業や携わる人々の思いを理解し、郷土を愛する心を高める。
- ・海の自然や資源、人との深いかかわりについて進んで調べようとする意識を高める。

3 単元の概要

(1) 年間カリキュラムでの位置づけ

令和2年度 3・4年生 「散布学（海洋編）」 年間カリキュラム												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	「海辺のゴミについて考えよう！」(7時間) ①海辺のゴミ拾い(ピーチーキング) ②ゴミを「海のもの」「山のもの」「人工物」「自然物」に分類				「散布の海の仕事を調べよう」(11時間) (旬の魚介類を使った料理教室) ①漁港周辺散策 ②昆布下し体験 ③ウニ養殖見学 ④地元の見布やササを使った料理づくり					「歩くスキーで冬の湿原散策」(7時間) ①歩くスキーで動物の足跡や野鳥の観察、チカ釣りを見学		
探究的な活動	①分解されないゴミの割合、山所等を調べる ②マイクロプラスチックについて調べる ③自分たちができることを考える(家庭や地域への働きかけ等)				①散布の漁業について調べる(漁業の年、漁法等) ②漁業携わる人々の苦勞や願いを知る(インタビュー等) ③生産性や価値を高める方法を考える(育てる漁業、おいしい食べ方等)					①一年間の学び(海と山のつながり)をまとめる		
発信活動	①成果を霧多布児童センターで発表し、成果物を展示する ②来場者の感想や意見をまとめる				①絵画作品の製作 ②調べた結果をまとめる 地域大感謝祭で発表					①保護者に対し一年間の学びの成果を発表(参観日)		

参考：「小学校における海洋教育のコンセプト」
～海洋政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より～



A 海に親しむ

見学や体験を通して地域の方々の仕事に関心をもつ。

B 海を知る

保護者や地域の方々の仕事や海の恩恵を受け、環境に大きく影響を受けていることを知る。

C 海を守る

獲る漁業から育てる漁業へと形態を変えつつある地域の人々の思いを理解する。また、獲れた魚介類の価値を高める工夫等を考え、保護者や地域の方々に発信する。

(2) 児童の実態

児童のほとんどの家庭が漁業を営んでいる。そのため、児童は日常的に昆布干しやウニ養殖、水揚げ作業を見たり体験したりしている。昆布干し作業の手順など、仕事の内容については理解しているが、これらの仕事が海の恩恵を受け、環境に大きく影響を受けていることや、仕事に携わる人々の努力や苦労を理解するまでには至っていない。

(3) 指導観

第1小单元「体験しよう」では、地域の水産資源として知っているものを挙げさせ、海の豊かさを十分感じさせるとともに、地域の産業について興味をもたせる。また、「学習したい」と思うものを話し合わせ、学習計画を立てていく。

第2小单元「調べよう」では、児童が知っていることや疑問に感じていることを表に整理させる。それを全体で共有することで、自分たちは何を知っていて、何を知らないのかを自覚させていく。そして、整理した表を基に、自分が調べたい項目を決定させていく。

第3小单元「解決しよう」では、漁師さんの協力のもと、疑問に感じていることなどをインタビューする。さらに、保護者に聞いたり、本やパソコン等を使ったりして解決をしていく。また、獲る漁業から育てる漁業へと形態を変えつつある地域の人々の思いを理解するとともに、獲れた魚介類の価値を高めるための工夫を考えていく。

第4小单元「まとめよう」、第5小单元「発信しよう」では、昆布やウニをはじめとする地域の漁業について、自分たちが学びを深めたことをまとめ、発表することで、自分たちの地域の海の素晴らしさを実感できるようにさせたい。また、環境の変化によって地域の漁業に影響が出ていることを知り、環境を守るために、自分たちができることやよびかけられることを実践していこうとする気持ちをもたせたい。

(4) 研究主題との関連

研究主題

「子供の確かな学力向上を目指した指導方法の工夫」

～基礎・基本の定着を図り、子供が意欲的に取り組む学習～

仮説

「教師が単元の学習過程の中で基礎・基本を明確にし、将来必要な力を見据えた指導を行うことで、確かな学力が身につくであろう。」

■単元を通して行う授業の工夫について

- ・学習の見直しをもたせ、学びを振り返る（主体的な学び）。
- ・自分と他者の意見や考え方を比較する。何がわかったかを記録化しながら、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする（対話的な学び）。
- ・事象の中から問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む（深い学び）。

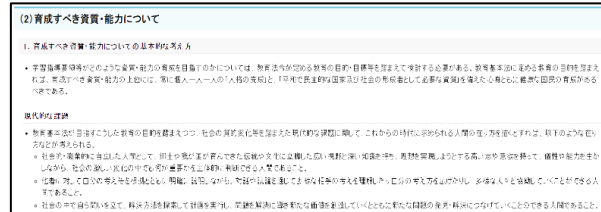
■本時における基礎・基本事項の定着のための授業工夫について

- ・本時の活動の見通しをもたせる（主体的な学び）。
- ・自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる（主体的な学び）。

■学習指導要領と社会人基礎力「課題発見力」との関連について

文部科学省は、右の図①「育成すべき資質・能力」の中で、以下のように示している。

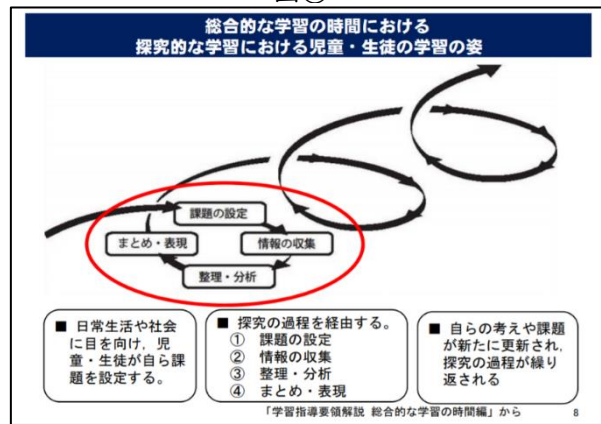
図①



「社会の質的变化等を踏まえた現代的な課題に即して、これからの時代に求められる人間は『社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことができる人間』である。」

また、右の図②総合的な学習の時間の学びのプロセスにおいても、探究の過程の初めの段階に「児童・生徒自ら課題を設定する」が示されている。

図②



以上のことから、今後育成すべき能力の中でも「自ら課題を発見する力」の重要性がわかる。

そして、経済産業省編『社会人基礎力育成の手引き』の中で、「問題解決の第一歩は問題点の発見であり、人が社会的活動する際には、問題点を発見し、それを理解し解決法を生み出し、そして、評価、検証しつつ実行に移していくという問題解決プロセスをたどります」と示されている。ここでも、課題を見つける力が重要であると述べられている。

■本時における社会人基礎力向上のための授業の工夫について

- ・課題発見力（現状を分析し目的や課題を明らかにする力）を発揮させるために、児童が漁業などについて知っていること、疑問に感じていることを整理しながら板書していく。そうすることにより、自分が漁業に関して「何を知っていて、何を知らないのか」を自覚させることができると考える。また、それらが整理されていく過程で、自分が調べてみたいこと（課題）を見いだしていくことができると考える。

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力等	ウ 学びに向かう力・人間性等
昆布やウニなどの性質、育ち方について、天候や海の環境と結びつけながら調べることで、その関係性を理解することができる。	漁業に関する体験的・探究的活動を通して、学習したことや発見したことを自分の思いを取り入れながら表現することができる。	漁業に携わっている人々の思い、それらを取り巻く環境等について知り、自分たちができることを考え、広めようとする。

5 指導と評価の計画（全9時間）

時	学 習 活 動	○指導上の留意点 △教科との関連 □評価
2	<p>○第1小单元「体験しよう」 散布漁港の見学・体験しよう ・昆布干し体験、ウニ養殖見学、 水揚げ作業の見学を通して漁業の仕事に興味をもつ。</p>	<p>○体験しながら、児童の「なぜ」「どうして」という考えを大切に、次時の学習につなげられるようにする。 □体験的活動を通して、昆布やウニの性質を実感し、課題を見つけ学習計画を立てることができる（イ）。</p>
特	<p>○第2小单元「調べよう」 何を知ってる？何を知らない？ ・自分たちが知っていること、疑問に思っていることを整理し、調べたいことについて考える。</p>	<p>○自分たちが知っていること、疑問に思っていること共有、整理しながら、自分が調べたい内容を決定できるようにする。 □漁業について自分が知りたいこと、疑問に思っていることを整理し、表現している（イ）。</p>
1	<p>調べてみよう ・自分が調べたいことを、資料やインターネットを使って調べる。</p>	<p>○散布漁協組合から提供された資料を用いる。インターネットで調べ学習ができるように、ローマ字表を用意しておく。 □漁業について自分が知りたいこと、疑問に思っていることを調べ、理解できている（ア）。</p>
1	<p>○第3小单元「解決しよう」 インタビューしよう！ ・知りたいことを聞いたり、調べたりする活動を通して解決する。</p>	<p>○子供たちの疑問にお答えいただくだけではなく、漁師さんの努力や苦労についてもふれられるようにする。 △国語「インタビューをしよう」 △国語「お手紙を書こう」 □取材の中で知ったこと、自分が感じたことをインタビューカードに記録している（ア）。</p>
1	<p>地元の素材を生かすには ・「獲る漁業から育てる漁業」の視点を持ち、魚介類が生かされるような調理方法について考える。</p>	<p>○昆布やウニ、魚などの素材が生かされるような調理方法を出し合う。保護者から提供された情報 △社会「食料生産に従事している人々の工夫や努力」 □魚介類が生かされるような調理方法を調べる。（ア）</p>
2	<p>○第4小单元「まとめよう」 漁業・地域について考える ・自分たちが聞いたり、調べたりして深めた内容を整理する。</p>	<p>○学習したことを簡潔にまとめられるように、一文の長さや書き方、イラストの入れ方などを指導する。また、自分の考えも入れながら書けるように声をかける。 △国語「新聞を作ろう」 □漁業に携わっている人々の取り組みや努力、苦労を考え、表現している（イ）。</p>
1	<p>○第5小单元「発信しよう」 地域大感謝祭で発信！ ・地域大感謝祭で、保護者や地域の方々に対し自分たちの学びの成果を発信する。</p>	<p>○自分が伝えたいことが相手に伝わったかどうかを確認するために、聞き手にコメントを書いてもらう。 □散布の漁業を取り巻く環境、地域の方の思いをまとめ、自分の考えを取り入れながら広めようとしている（ウ）。</p>

6 本時の目標

海の資源や漁業について自分が知っていること、疑問に思っていることを整理し、全体で共有することで、自分が調べたいことについて考えることができる（思考力・判断力・表現力）。

7 本時の展開案（3／9）

	児童の学習活動	教師の働きかけ・評価	留意点																
導入 7分	1、前時の活動を振り返り、本時の活動の見通しをもつ。	1、前時の見学・体験で「知っていたこと」「新しく知ったこと」と思ったことを想起させる。																	
	知っていること、疑問に思うことを整理し、調べてみたいことを決めよう。																		
展開 25分	2、知っていること、疑問に思うことを考える。 ・「あさり」を例に、全体で考える。 個人思考（5分）→集団思考（20分） ・昆布について <table border="1" style="margin: 5px 0;"> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">?</td></tr> <tr><td>長、あつぱ、とろろ</td><td>どのくらい獲れるか</td></tr> <tr><td>育ち方</td><td>獲れる量は減ったのか</td></tr> </table> ・ウニについて <table border="1" style="margin: 5px 0;"> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">?</td></tr> <tr><td>施設を作っている</td><td>どのくらい獲れるか</td></tr> <tr><td>冬にたくさん売る</td><td>ずっと獲れるのか</td></tr> </table> ・漁師について <table border="1" style="margin: 5px 0;"> <tr><td style="text-align: center;">○</td><td style="text-align: center;">?</td></tr> <tr><td>減っている</td><td>どうして減っている？</td></tr> </table> 3、自分が調べてみたいことを決める。 ・昆布のことをもっと調べてみたい。 ・ウニ養殖が始まった理由が知りたいな。 ・漁師さんがどのくらい減ったのか知りたい。	○	?	長、あつぱ、とろろ	どのくらい獲れるか	育ち方	獲れる量は減ったのか	○	?	施設を作っている	どのくらい獲れるか	冬にたくさん売る	ずっと獲れるのか	○	?	減っている	どうして減っている？	2、4つの視点（昆布、ウニ、魚、漁師）考える視点を明確にする。 ・昆布の過去と現在の収穫量データを見せる。どうして減っているのかな。今後はどうなっていくのかな。 ・どうしてこの地域ではウニ養殖が始まったのかな。 ・今の漁師さんの悩みは何なのだろうか。	・児童が「知っている」と思っていることも「本当かな？」と問い返すことで、自分の知識が正しいかを吟味させる。 ・子供が「疑問に感じたこと」を発表した時は、板書したり、ワークシートに書かせたりする。 ・知っていることを、さらに詳しく調べてもよいことを伝える。 ・調べてみたいことが決まらないときは、気になることを書くように促す。
○	?																		
長、あつぱ、とろろ	どのくらい獲れるか																		
育ち方	獲れる量は減ったのか																		
○	?																		
施設を作っている	どのくらい獲れるか																		
冬にたくさん売る	ずっと獲れるのか																		
○	?																		
減っている	どうして減っている？																		
まとめ 13分	4、振り返りをして、次時の見通しをもつ。 ・自分が何を知らないのかがわかった。 ・自分が調べていくことが決まった。 ・友達の見解を聞いて調べたいことがわかった。 ・家族に聞いてみようかな。	4、振り返りを行う。																	

次年度以降の取組
(単元計画・授業計画)

2021年度以降の「散布学（海洋編）」の単元計画

今年度の各学級の実践をもとに、子供たちに必要な学びを精査し、次年度以降の「散布学（海洋編）」の教育課程を編成した。

なお、各学年の学習コンセプトについては、海洋政策研究財団発行の「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン（小学校編）～海洋教育に関するカリキュラムと単元計画～」を参考とした。

1 各学年で取り組むテーマ

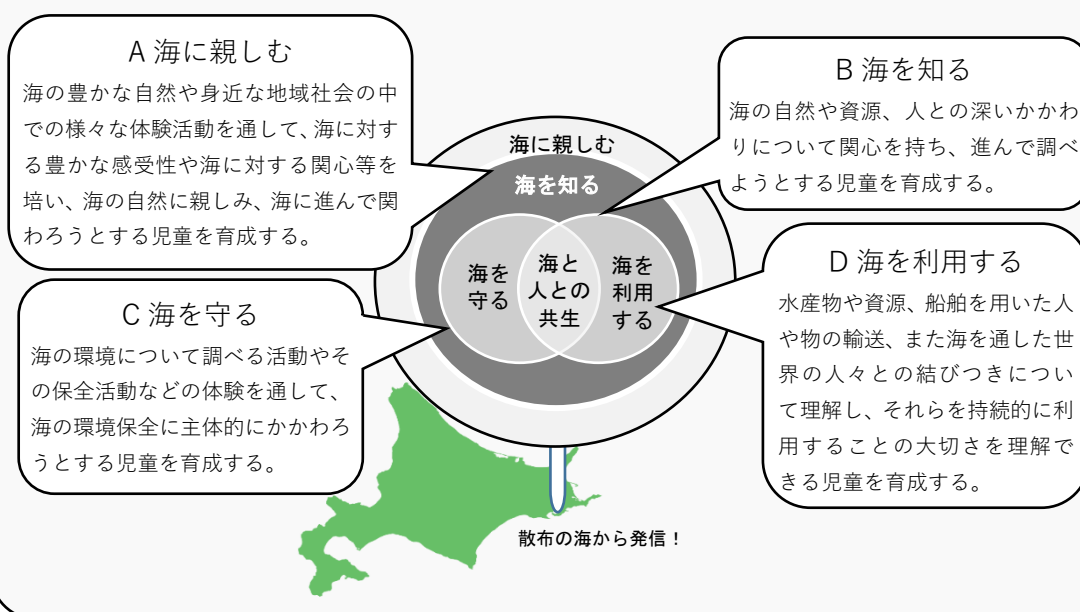
学 年	1・2年	3・4年	5・6年
テーマ	1年生 ○きせつとなかよし はる なつ ○きせつとなかよし あき 2年生 ○めざせ 生きものはかせ	○海と山のつながり ○散布の海の仕事を調べよう	○あさりの生態を調べよう ○私たちの海を守ろう
備考	主に生活科で実施	特例教育課程 「散布学（海洋編）」	特例教育課程 「散布学（海洋編）」

2 学習コンセプト（「海洋教育4つの視点」より）

学 年	1・2年	3・4年	5・6年
コンセプト	A 海に親しむ B 海を知る	A 海に親しむ B 海を知る C 海を守る	B 海を知る C 海を守る D 海を利用する

参考：「小学校における海洋教育のコンセプト」

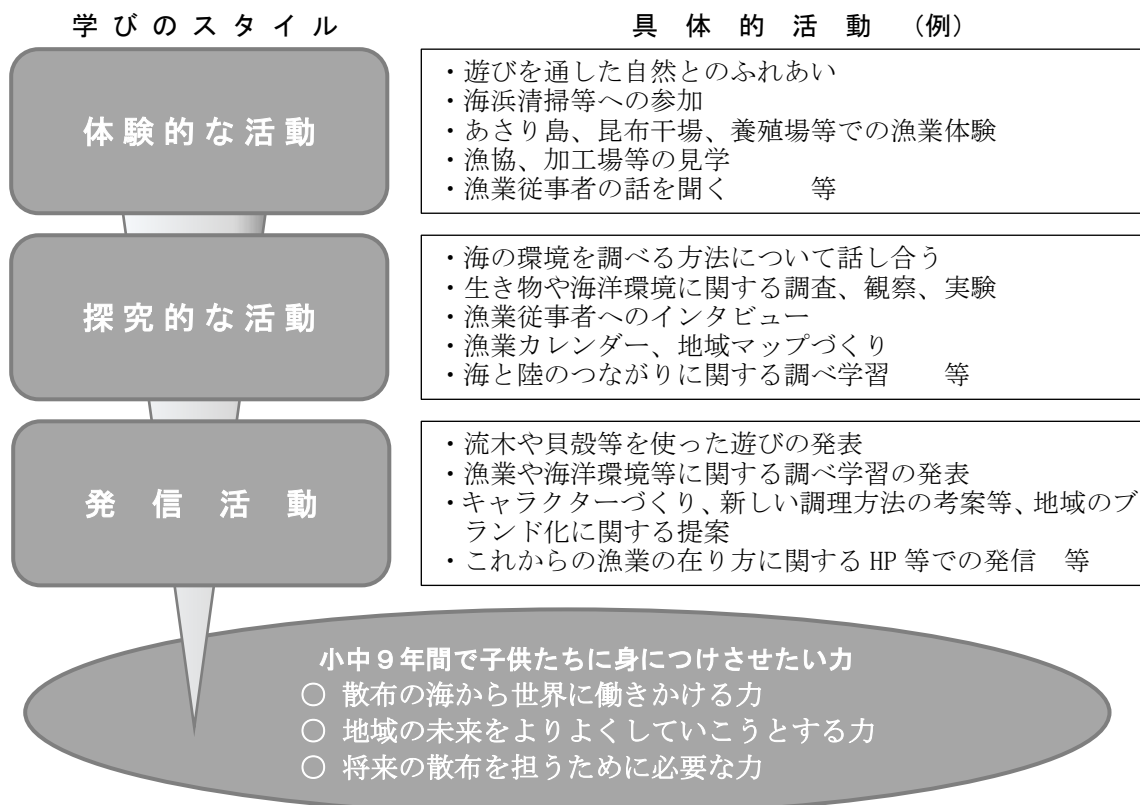
～海洋政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より～



3 学びのスタイル

本校研修部で研修を進めている子供たちに身に付けさせたい力である「社会人基礎力」と照らし合わせ、次年度以降に取り組む「散布学（海洋編）」の学びのスタイルを、大きく次の3段階に設定した。

なお、この学びのスタイルは、次年度実践を通してながら随時修正を進めていくものとする。



■ 参考資料（社会人基礎力）

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要や基礎的な力を「社会人基礎力（=3つの能力・12の要素）」として定義した。

前に踏み出す力（アクション）

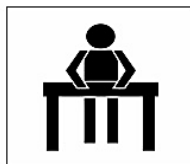
～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



- 主体性
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力
目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力（シンキング）

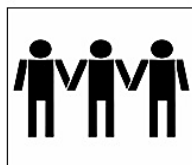
～疑問を持ち、考え抜く力～



- 課題発見力
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力
新しい価値を生み出す力

チームで働く力（チームワーク）

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



- 発信力
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性
意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性
社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力
ストレスの発生源に対応する力

令和3年度 1年生 生活科「散布学（海洋編）」 年間カリキュラム

- 1 単元名 「きせつと なかよし はる なつ」「きせつと なかよし あき」
- 2 コンセプト A：海に親しむ B：海を知る
- 3 実践のねらい
 - ・春、夏、秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりすることができるようにする。
 - ・自然や生活の様子の変化、自然の面白さや不思議さ、海岸、公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気付き、季節を取り入れて遊びや生活を楽しむ創り出すことができるようにする。

4 年間活動計画（21時間扱い）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	きせつと なかよし はる なつ(10時間)											
探究的な活動	きせつと なかよし あき(11時間)											
発信活動	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>①見つけた生きものの名前を(教科書や図鑑で)調べたり、観察したりする。</p> <p>②見つけたことや楽しかった遊び、驚いたことなど不思議に思ったことなどを絵や文などにして表現したり、友達と伝え合ったりする。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>①見つけた生きものの名前を(教科書や図鑑で)調べたり、観察したりする。</p> <p>②「あきのたからものランド」に必要なものを作ったり準備したりする。</p> <p>③遊び方やルールをグループで話し合ったり、試しに遊んでみたりして工夫する。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>①見つけた生きものの名前を(教科書や図鑑で)調べたり、観察したりする。</p> <p>②「あきのたからものランド」に必要なものを作ったり準備したりする。</p> <p>③遊び方やルールをグループで話し合ったり、試しに遊んでみたりして工夫する。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">(海の子作品展)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">①絵画作品の製作(図工)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">文化祭での展示</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地域感謝祭で発表</div> </div>											

- 5 関係機関との連携及び内容
散布漁業協同組合：海岸探索

- 1 単元名 「めざせ 生きものはかせ」
- 2 コンセプト A：海に親しむ B：海を知る
- 3 実践のねらい
 - ・海の生きものを育てる活動を通して、生きものたちがすんでいた場所、変化や成長の様子に関心を持って働きかけることができるようにする。
 - ・海の生きものが生命をもっていることや成長していることに気付き、生きものへの親しみをもち、大切にすることができるようにする。
- 4 年間活動計画（10時間扱い）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	<p style="text-align: center;">めざせ 生きものはかせ (10時間)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ①学校の近くの自然の中（海岸）にどんな生きものを見つけたことがあるかを発表する。 ②安全に気をつけて生きもの探しに出かける。 </div>											
探究的な活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ①飼っている生きものについて、生きものに詳しい人に聞いたり、図鑑や本を見たり、インターネットで調べたりする。 </div>											
発信活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ①飼っている生きものを紹介し合うことについて話し合う。 ②発表の準備をする。 ③クイズや発表・新聞・身体表現などさまざまな方法で発表する。 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> (海の子作品展) </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">① 絵画作品の製作(図工)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">文化祭での展示</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">地域大感謝祭で発表</div> </div>											

- 5 関係機関との連携及び内容
散布漁業協同組合：海岸探索

1 単元名 「きせつと なかよし はる なつ」

2 単元のねらい

- ・春や夏の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、春や夏の特徴や違いを見つけることや、それらを使って遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができるようにする。
- ・自然や生活の様子の変化、自然の面白さや不思議さ、海岸や公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気付き、季節を取り入れて遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

3 単元指導計画（全10時間）

時	学 習 活 動	備考・外部との連携
2	<p>○（単元の導入） 《海岸や公園で遊んだ経験を思い出し、自然の中で遊ぶ楽しさに気付き、春や夏の季節の特徴を生かした楽しい遊びに関心をもつ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春や夏には、こんなことをして遊んだよ ・海岸では、貝殻などを拾って遊びたいな 	
2	<p>○かいがんで あそぼう 《海岸や公園の自然に、諸感覚を使って関わったり、自然物で遊んだりして、季節の特徴に気付き、それらと適切に関わって遊ぶ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸には色々なものがあるね ・生き物もたくさんいるね ・流れてきた木などを使って、何か作れないかな 	保護者 散布漁協
2	<p>○はるから なつの いきもの 《生きものを見付けたりして、遊びや、工夫して遊びを作り出す面白さに気付き、遊びを楽しみたいという願いをもって、自然と触れ合う》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸には、色々な生き物がいたね ・海岸で遊んだけど、あの遊びが面白かったな ・見つけた生き物の名前を図鑑で調べてみよう 	
5	<p>○なつを かんじよう 《暑くなってきた気候を生かして遊びを楽しむ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晴れた日の海岸での水遊びや砂遊びは楽しいね ・遊んで楽しかったことを、絵や文にかいてみよう 	
1	<p>○なにを かんじたかな 《身近な自然で繰り返し遊んだ活動を振り返って、その面白さや不思議さ、友達と一緒に遊ぶ楽しさに気付く》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸で遊んで、こんなことが楽しかったよ 	
学習コンセプトに関して A海に親しむ 海岸での遊びを通して、身近な海に親しむ。 B海を知る 海岸の生きものや貝殻について調べる。		

1 単元名 「きせつと なかよし あき」

2 単元のねらい

- ・秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見つけることや、それらを使って遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができるようにする。
- ・自然や生活の様子の変化、自然の面白さや不思議さ、海岸や公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気付き、季節を取り入れて遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

3 単元指導計画（全11時間）

時	学 習 活 動	備考・外部との連携
1	<p>○（単元の導入）</p> <p>≪秋の海岸や公園の変化を思い起こして、生活の変化や自然の様子に気付き、秋にできる遊びについて期待をもつ≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の海岸は、春や夏とどのように変わってるのかな ・みんなで、こんなことをしてみたいな 	
2	<p>○あきを 見つけに いこう</p> <p>≪海岸に出かけ、秋の海岸の様子や生きものなどを観察し、季節の変化に気付く≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の海岸にも色々なものがあるね ・夏と違うのは、どんなところかな 	保護者 散布漁協
2	<p>○なにを かんじたかな</p> <p>≪見つけた秋の特徴や自然物、楽しかった活動などを友達と伝え合い、遊びや生活をより楽しくする≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸で遊んだけど、あの遊びが面白かったな ・見つけた生き物の名前を図鑑で調べてみよう 	
1	<p>○たからもので あそぼう</p> <p>≪海岸で集めた物の特性を生かして、簡単な遊びを楽しむ≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貝殻や拾った木を使って遊びたいな 	
2	<p>○たのしさを つたえよう</p> <p>≪「あきのたからものランド」の準備をする≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貝殻を使って、おもちゃを作ろう ・拾った木を使った遊びは、こう変えたらもっと面白いね 	
2	<p>○みんなで たのしもう</p> <p>≪「あきのたからものランド」で、すすんで触れ合い交流する≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなふう遊ぶんだよ 	地域大感謝祭
1	<p>○なにを かんじたかな</p> <p>≪活動を振り返り、みんなで秋を楽しむことができたことや、友達や自分自身の成長に気付く≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな準備して、遊ぶことができて楽しかったね 	
<p>学習コンセプトに関して</p> <p>A海に親しむ 海岸での遊びを通して、身近な海に親しむ。</p> <p>B海を知る 海岸の生きものや貝殻について調べる。</p>		

1 単元名 「めざせ 生きものはかせ」

2 単元のねらい

- ・海の生きものを育てる活動を通して、生きものたちがすんでいた場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができるようにする。
- ・海の生きものが生命をもっていることや成長していることに気づき、生きものへの親しみをもち、大切にすることができるようにする。

3 単元指導計画（全10時間）

時	学 習 活 動	備考・外部との連携
1	<p>○（単元の導入） 《海の生きものを育てることを話し合い、生きものを採取したり育てたりするイメージをもつ》 ・海岸では、こんな生きものを見つけたよ ・こんな生き物を飼いたいな</p>	
2	<p>○生きものを つかまえよう 《生きものの特徴を予想して、生息場所や生態に合わせた道具を準備し、自分で生きものを見つける》 ・海岸の生きものをどうやってつかまえようか ・世話ができる分だけを捕まえよう</p>	保護者 散布漁協
3	<p>○生きものを かって みよう 《育つ環境と関係づけながら観察し、特徴に合わせた適切な世話をし、形態や生態に気づき、海の生きものを大切にする》 ・飼い方をインターネットで調べてみたよ ・図鑑にはこのように書いてあったよ ・大切に育てたいね</p>	
3	<p>○生きものの ことを つたえ合おう 《生きものの特徴など伝えたいことを工夫してまとめ、相手に伝わるよさや楽しさ、適切な伝え方がわかり、伝えたいという思いをもち、すすんで交流する》 ・飼っている生き物についてどのように紹介し合うかな ・ぼくは飼っている生き物についてクイズで伝えるよ ・私は、他の方法で伝えてみたいな</p>	地域大感謝祭
1	<p>○何を かんじたかな 《育てて実感したことや生きものの特徴を伝え合い、上手に世話ができるようになったことに気づき、継続して育てた自分に自信をもち、生命あるものを大切にする》 ・生きもののお世話って大変だね ・毎日しっかり餌をあげることができたよ</p>	
<p>学習コンセプトに関して A海に親しむ 海岸での観察を通して、身近な海に親しむ。 B海を知る 海や海岸の生きものについて、その生態や世話の仕方について調べる。</p>		

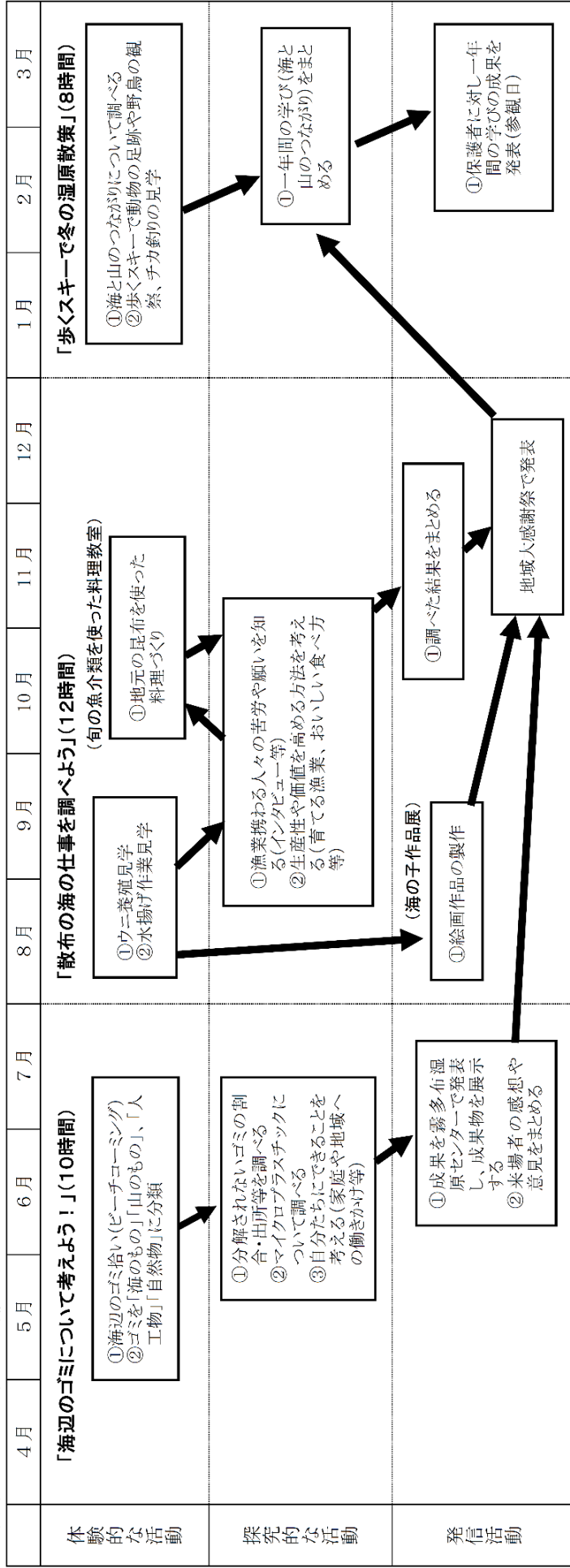
1 単元名 「海辺のゴミについて考えよう！」「散布の海の仕事を調べよう」「歩くスキーで冬の湿原散策」

2 コンセプト A：海に親しむ B：海を知る C：海を守る

3 実践のねらい

- ・海の環境を保全する活動を通して、自分たちの生活が海とつながっていることを理解し、進んで海の自然を守ろうとする意欲を高める。
- ・海の自然や資源、人との深いかかわりに関心を持ち、進んで調べようとする児童を育成する。

4 年間活動計画（30時間抜粋）



5 関係機関との連携及び内容

霧多布湿原センター：ビーチコーミング・歩くスキー講師

散布漁業協同組合女性部：旬の魚介類を使った料理教室講師（予定）

AMAMO ワークス：霧散布海岸学習

散布漁業協同組合：ウニ養殖センター、漁港見学

1 単元名 「海辺のゴミについて考えよう！」

2 単元のねらい

- ・自分たちの住む地域の生活が海とつながっていることを理解し、進んで海の自然を守ろうとする意欲を高める。
- ・海の自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べようとする児童を育成する。

3 単元指導計画（全10時間）

時	学 習 活 動	備考・外部との連携
1	<p>○日常生活やこれまでの学習から、散布周辺の海や海岸のゴミの状況を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいに見えるけどよく見るとたくさんゴミがある ・どれくらいの量があるんだろう <p>○調査の仕方を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・霧多布湿原センター職員による説明 	霧多布湿原センター
3	<p>○ビーチコーミングを行う ≪「海のもの」と「山のもの」、「人工物」と「自然のもの」で分類する≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックのゴミが多い ・どこから流れてくるんだろう ・世界中でどれくらいのゴミが海に流れているんだろう 	霧多布湿原センター 浜中町町民課生活環境係
5	<p>○海のゴミについて調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックはどれくらいで自然に戻るんだろう ・図書ホールに「マイクロプラスチック」について書かれている本があったな 	浜中町町民課生活環境係
1	<p>○調べた結果を発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域、町内の小学校3・4年生児童を対象に、学習の成果を発表する。 <p>※成果物、ポスターは霧多布湿原センターに期間を決めて展示し、来場者にアンケートを書いてもらう （後日まとめて地域大感謝祭で発表する）</p>	集合学習を活用
<p>学習コンセプトに関して</p> <p>A海に親しむ 自分たちの身近な環境であり、保護者や地域の人たちが働く場所である海を進んできれいにしようとする。</p> <p>B海を知る 現在、世界中の海で年間800万トン（※ジャンボジェット機5万機相当）のプラスチックが海に流入しているといわれている。</p> <p>C海を守る 自分たちにできることを考え、霧多布湿原センターに成果物を展示し、来場者をはじめ保護者や地域の方々に発信する。</p>		

1 単元名 「漁業と酪農業を調べよう」

2 単元のねらい

- ・自分たちの住む地域の産業や携わる人々の思いを理解し、進んで地域の発展に貢献しようとする意識を高める。
- ・海の自然や資源、人との深いかかわりについて進んで調べようとする意識を高める。

3 単元指導計画（全12時間）

時	学 習 活 動	備考・外部との連携
2	○散布漁港及び火散布沼周辺での見学・体験 ・昆布干し体験 ・ウニ養殖見学 ・水揚げ作業の見学 などから保護者・漁協と相談し決定	《協力・受入れ》 散布漁協青年部
4	○漁業について調べる ・散布でとれる昆布は？ 年間どれくらいとれるの？ ・ウニは何を食べていて、どのように成長するの？ ・散布ではどんな魚介類がどの時期にとれるの？ ○漁業に携わる人々の思いを知る（インタビュー） ・昔ほど魚が獲れなくなっている ・若者の魚ばなれ ・価格が上がらない など	昨年度の調べ学習の発展 保護者 散布漁協青年部
1	○これからの漁業・地域の未来について考える ・作業を楽にする方法は？ ・とってばかりいたら、いつか魚や昆布がとれなくなってしまうんじゃない？ ・おいしい食べ方をセット販売したらみんな昆布や魚を食べるんじゃない？	
3	○酪農業のことを知ろう！ ・チーズの種類や作り方、搾乳の機械やえさの種類を知る ・子牛や母牛の様子などを観察する	《協力・受入れ》 Grateful Farm (松岡牧場)
1	○調べた結果をまとめよう ・これまでの学習のまとめを行う	
1	○調べた結果を発信する ・地域大感謝祭で、保護者や地域の方々に対し自分たちの学びの成果を発信する。	保護者 散布漁協 散布小中学校コミュニテ ィ・スクール
学習コンセプトに関して A海に親しむ 見学や体験をとおして保護者や地域の方々の仕事に関心を持つ。 B海を知る 保護者や地域の方々の仕事は海の恩恵を受け、環境に大きく影響を受けていることを知る。 C海を守る 獲る漁業から育てる漁業へと形態を変えつつある地域の人々の思いを理解する。また、獲れた魚介類の価値を高める工夫等を考え、保護者や地域の方々に発信する。		

1 単元名 「歩くスキーで冬の湿原散策」

2 単元のねらい

- ・ 普段眺めるだけの湿原に入り、季節による自然の変化を体感する。
- ・ 観察を通して海と山には深いつながりがあることを理解し、進んで自然を守ろうとする意識を高める。

3 単元指導計画（全8時間）

時	学 習 活 動	備考・外部との連携
2	○海と山のつながりについて調べる <ul style="list-style-type: none"> ・ 「うおつきりん」や「フルボ酸鉄」という言葉から、海と山のつながりについて考える ・ 「森林が手入れされないと漁獲量が減る」という謎にせまる 	
3	○歩くスキーで冬の湿原を観察する 《観察》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 琵琶瀬川散策 ・ ネズミの足跡やトンネルの観察 ・ チカ釣りの見学 ・ 野鳥観察（オジロワシ、オオワシ、トビ） 《スタッフによる講話》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海と山のつながり、水や空気の浄化、生き物を育むための湿原の役割について 	《協力・受入れ》 霧多布湿原センター 霧多布湿原センター職員
1	○見学のまとめを行う <ul style="list-style-type: none"> ・ 湿原散策で学んだことをまとめる 	
1	○一年間の学習のふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ拾い、海の仕事調べ、湿原散策等、一年間の学びをふりかえる 	
1	○調べた結果を発信する <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や地域の方々に対し自分たちの学びの成果を発信する 	授業参観 散布小中学校コミュニティ・スクール
学習コンセプトに関して A海に親しむ 身近な環境である冬の霧多布湿原を中から体感する。 B海を知る 海と山には深いかかわりがあること、また、循環の過程で大気と水を浄化する湿原の働きについて理解する。 C海を守る 地域の海洋環境保全のためには、自分たちの住む地域だけでなく、より広い視野が必要であることを知り、進んで環境のために行動しようとする意識を育む。		

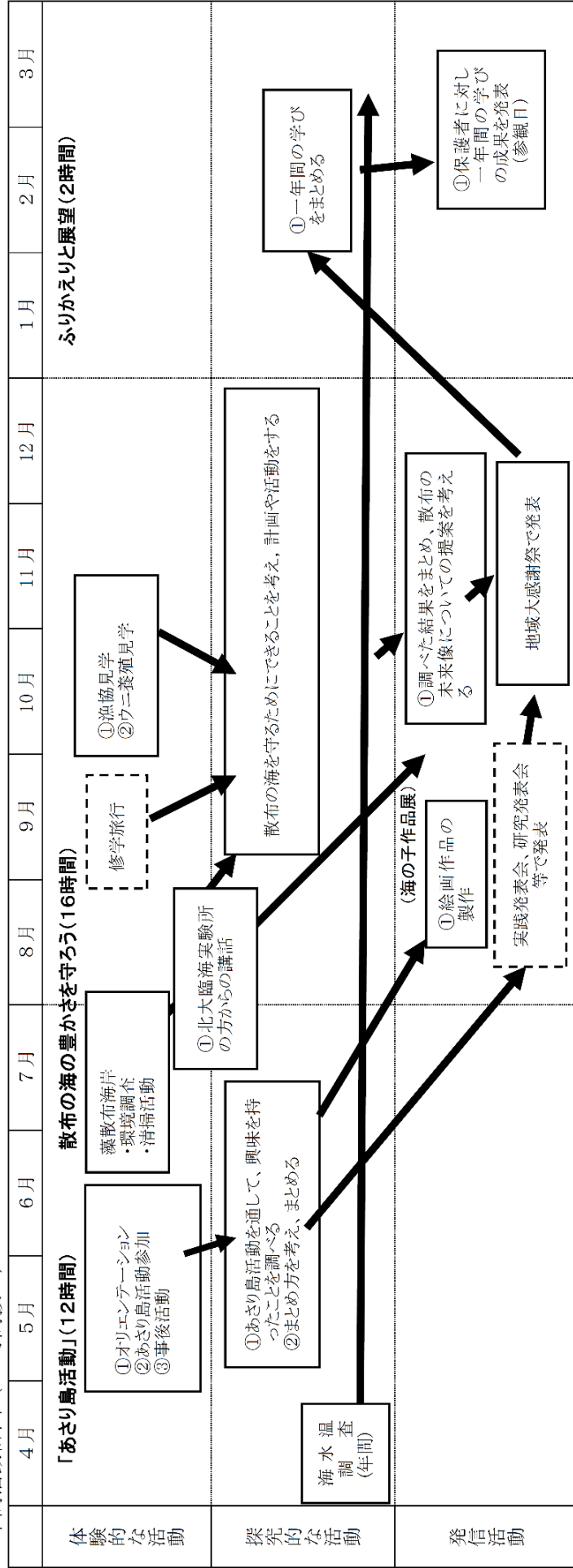
1 単元名 「あさり島活動への参加」「散布の海の豊かさを知り、守ろう」

2 コンセプト B：海を知る C：海を守る D：海を利用する

3 実践のねらい

- ・海の環境を保全する活動を通して、自分たちの生活が海とつながっていることを理解し、進んで海の自然を守ろうとする意欲を高める。
- ・海の自然や資源、人との深いかわりについて関心を持ち、進んで調べ、自分たちでできることを見つけて実践しようとする児童を育成する。

4 年間活動計画（30時間扱い）



5 関係機関との連携及び内容

散布漁業協同組合：ウニ養殖センター、漁港見学

北大臨海実験所：海水温上昇と昆布の生息に関する講話

霧布温原センター、AMAMO ワークス：藻散布海岸学習

1 単元名 「あさり島活動」

2 単元のねらい

- ・海的环境を保全する活動を通して、自分たちの生活が海とつながっていることを理解し、進んで海を自然を守ろうとする意欲を高める。
- ・海を自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べ、自分たちでできることを見つけ実践しようとする児童を育成する。

3 単元指導計画（全12時間）

時	学 習 活 動	備考・外部との連携
1	<p>○あさり島活動についてのオリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あさり島活動について知る ・アサリの生態について知る ・準備や心構えを確認する <p>○調査テーマを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あさり島活動を通して調べたいテーマや探求方法を考える 	釧路地区水産技術普及指導所 散布漁業協同組合 中学校との連携
7	<p>○あさり島活動への参加</p> <p>〈中学生と一緒に活動し、あさりの採取、外敵駆除、稚貝巻きを体験する〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あさりはどのようなところにいるか ・外敵駆除や稚貝巻きであさり島の環境を守っているんだ ・あさがり益金に変わることを知る 	散布漁協協同組合 中学校との連携
3	<p>○あさり島活動を通してもった課題について調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あさは水をきれいにするけど、どのくらいきれいにするんだろう ・あさがり住みやすい環境はどんなところだろう ・あさりの外敵についてもっと知りたい ・火散布沼の周りの自然について調べたい 	中学校との連携
1	<p>○調べた結果を発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域大感謝祭や実践発表会、参観日等で発表をする 	
学習コンセプトに関して B海を知る あさり島を支える環境について体験すること。 C海を守る あさりの生態について知り、自分たちにできることを考え、発信する。 D海を利用する あさり島での益金についてその活用について知る。		

1 単元名 「散布の海の豊かさを守ろう」（環境保全）

2 単元のねらい

- ・海を環境を保全する活動を通して、自分たちの生活が海とつながっていることを理解し、進んで海を自然を守ろうとする意欲を高める。
- ・海を自然や資源、人との深いかわりについて関心を持ち、進んで調べ、自分たちでできることを見つけ実践しようとする児童を育成する。

3 単元指導計画（全16時間）

時	学 習 活 動	備考・外部との連携
6	<p>○様々な体験活動から散布の海との関連を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藻散布海岸での生物調査、清掃活動 ・漁港、漁協見学。ウニ養殖センター見学 ・海水温上昇と昆布の採取量との関係 ・修学旅行等における見学や体験活動 <p>※海水温調査</p> <p>○調査テーマを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験活動を通して調べたいテーマや探求方法を考える 	<p>散布漁業協同組合 北大臨海実験所</p>
7	<p>○地域の自然環境や産業の状況について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港や漁協の見学 ・網を結び仕掛けを創る体験から、漁業について理解を深める ・ウニの養殖場を見学し、育てる漁業について理解を深める ・修学旅行等で昆布の養殖等見学調査する <p>○体験活動を通してもった課題について調べ、活動へ結びつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆布やあさり、ウニが育ちやすい海とは ・散布の海や海岸の美しさを守るにはどうすればよいか 	<p>散布漁業協同組合 北大臨海実験所</p>
3	<p>○調べた結果を発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域大感謝祭や実践発表会、参観日等で発表をする ※内容によっては役場の人に提案内容を聞いてもらう 	<p>この他にも発表の場（成果発表や参観日）を考慮 役場観光課</p>
<p>学習コンセプトに関して</p> <p>B海を知る 自分たちの周りにある海との対比を通して、散布の海の豊かさについて体験すること。</p> <p>C海を守る 豊かな散布の海について現状を知り、自分たちにできることを考え、発信する。</p> <p>D海を利用する 散布の海の保全について考え、行動や提案をする。</p>		

今年度の成果と課題

1 はじめに

昨年度から3年間にわたり、日本財団・東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター・笹川平和財団海洋政策研究所「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の研究指定を受け、小学校において2年目の実践に取り組んできた。今年度、1年目に立てた特例教育課程「散布学（海洋編）」の計画に沿って各教科と相互に関連付けた実践を行ったが、次のとおり成果と課題が明らかとなった。

2 成果と課題

(1) 成果

- ・1・2年生は、数多くの水辺の生きものにふれ合い、本校周辺の自然の豊かさに気づくことができた。また、それらの栄養分が海に流れ込み、魚、昆布、ウニなどの豊かな海産資源の育成に繋がり、自分たちの生活を支えていることを学ぶことができた。
- ・3・4年生は、藻散布海岸での学習をきっかけに、「海の資源」や「散布の産業」につなげていくことができた。そして「産業に携わる人々の思い」にも触れることができ、より一層地域に誇りを持つことができた。知識と体験が結び付いた活動ができた。
- ・5・6年生は、「散布ちよこっと未来」のテーマのもと、様々な体験活動を通して魅力ある散布のまちづくりを考える中で、自分たちの身近な環境を再発見し、さらに愛着を持つことができた。
- ・教職員研修では、新型コロナウイルスの影響により、例年よりは遅れた開催になったが、あさり掘り体験、生態学習会をすることができた。
- ・避難訓練では、津児童生徒、保護者、教職員が津波のメカニズムを確認し防災意識を高める機会となった。
- ・地域大感謝祭では、児童生徒が「発信」に慣れ、「海洋教育の学び」と「地域への感謝」の関連性が浸透した。中学生による参加型の催しが好評であった。

(2) 課題

- ・取り組みの大枠は今年度の継続で良いと考えるが、身近な海での遊び等を通しての関わる時間をさらに確保し、より海に対する興味関心を高めていく必要がある。
- ・子供たちの課題意識と探究活動につながりが生まれるようなカリキュラムの作成が必要である。また、国語（リーフレット、ポスター）、理科（水のゆくえ）、社会（土地の利用）など、海洋教育と関連を図ることができる教科を整理していく必要がある。
- ・今年度の活動をもとに見直しを図り、2年1巡できるような学年や発達段階を考慮し、児童の課題意識と探究活動の推進を支えていくカリキュラムの作成が必要である。

3 次年度に向けて

小学校低学年においては、身近な海での遊び等の時間をさらに確保し、より海に対する興味関心を高めていくほか、中・高学年においては、海洋の環境保全やあさり島活動をはじめ漁業の仕事への積極的な関わり等、様々な体験や探究活動を通して、地域の海や水産資源と環境の結び付きについて学び、地域の発展に貢献できる人づくりに取り組んでいきたい。

浜中町立散布小学校

校長(兼) 中 村 研 自
教 頭 清 水 秀 紀
教 諭 百 武 里 弥
教 諭 吉 藤 潤
教 諭 常 陸 勇 馬
教 諭 高 橋 訓
養 教 森 下 みなみ
事 務 小笠原 佳 子
事 生 佐 藤 愛

浜中町立散布中学校

校 長 中 村 研 自
教 頭 角 田 牧 子
教 諭 大 寺 善 仁
教 諭 近 重 大 治
教 諭 鶴 見 真 弥
教 諭 尾 崎 唯
教 諭 蝦 名 邦 人
教 諭 鹿子島 潔
教 諭 齊 藤 昌 義
教 諭 岩 城 裕
教 諭 林 風 華
養教(兼) 森 下 みなみ
事務(兼) 小笠原 佳 子
事生(兼) 佐 藤 愛

発行日 令和3年3月

発行者 浜中町立散布小中学校

〒088-1536 厚岸郡浜中町火散布 133 番地

TEL/0153-67-2324 FAX/0153-67-2350

HP アドレス <https://tirippuhamanaka.jimdofree.com/>



印 刷 釧路総合印刷株式会社



 日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION
 海洋教育センター
CENTER FOR OCEAN POLICY RESEARCH AND EDUCATION
 笹川平和財団
©2021 海洋政策研究所

この実践記録集は、日本財団・東京大学海洋教育センター・笹川平和財団海洋政策研究所「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の助成金を活用しています。